

第三者意見



SGSジャパン株式会社
サステナビリティサービス部 主任検証人

都倉 知宏氏

シチズンという社名に込められた「市民に愛され市民に貢献する」、この企業理念が従業員に行き渡っており、ものづくりの現場においても活かされていることを感じる報告書です。また1990年に創設され、以降毎年顕彰されている「シチズン・オブ・ザ・イヤー」。この活動の継続も企業理念を体現しているのみでなく、熟慮された選考方法とその公平性においても高く評価できます。

さらに報告されている中国法人の事例では、働きやすい職場とするための活動として、社内のコミュニケーション強化や人事制度改革といった組織内活動のみにとどまらず、治安向上のための会社近隣への派出所の設置や利便性向上のための郵便局へのATM設置、さらに、公園の建設検討といった地域行政機関と一体となつてのコミュニティそのものの発展向上といった社会貢献活動は、先進的な事例として目を見張るものがあります。

反面、海外での先進的な取り組みを断片的に知ることはできるのですが全体像が見えてきません。多くの企業が海外事業者、特にアジア地区における環境、人権、労働慣行への取り組みに不安を抱いており、把握および統制を急いでいます。海外従業員比率が7割弱と高く、また売上比率も6割を超える高さからも海外におけるCSR活動を俯瞰的に報告することは重要なことと考えます。今後に期待いたします。

意見書を発行するにあたりインタビューを実施いたしました。インタビューでは、CSR活動を推進するにあたり、リスクマネジメントが重要との立場をとられ、経営上のリスクは経営会議で、業務上のリスクはCSR担当部署にてそれぞれPDCAを回されていることを伺いました。これらの活動に基づき、行動計画や到達目標もあるのだと想像できるのですが、報告書では環境活動にフォーカスした「環境中期計画2018」のみの報告となっていました。そのためCSR活動全体の進捗状況がわかりづらい内容となっています。個々の実施状況はよくわかるのですが、現在の活動について到達目標に対する達成状況の程度や今後の課題が見えないと感じました。中長期的な行動計画の明示とその進捗状況の報告も今後検討される余地があると考えます。

また、御社のCSR活動は、企業行動憲章に関連する課題をステークホルダーのニーズも考慮の上特定し、優先的な課題から対応されているのだと思いますが、報告テーマがどのように選定されたのかかわからないため、報告されなかったテーマにも重要なものがあるのでは?といった疑問も生じます。このようなテーマ選定プロセスについても報告することは、読者の理解を深めるだけでなく、報告内容の信頼性向上にもつながると思います。今後に期待いたします。

カーボン・ディスクロージャー・プロジェクトの活動にも代表されるように、企業の情報開示状況を取り巻く環境は内容の正確性が求められるだけでなく、信頼性の向上も重要度を増しています。環境データと経済および社会データでの活動範囲の適切性、データの算定方法の正確性および信頼性について第三者検証を検討されることを期待します。

※このコメントは、本書が一般に公正妥当と認められる環境報告書などの作成基準に準拠して正確に測定、算出され、かつ事項が漏れなく表示されているかどうかについて判断した結論を表明するものではありません。

第三者意見を受けて

貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。シチズングループは中期経営計画「シチズングローバルプラン2018」のなかで「真のグローバル企業」をめざし事業活動に取り組んでいます。そのなかで遵法経営はもちろんのこと、社会との信頼構築に加え、社会との対話から新たな価値を創造することが重要であると認識しています。ご指摘のありました海外展開などにおいては、現在リスクマネジメントの重要課題として計画的に実態調査／改善を実施しており、次のステップとしては環境も含めたグループ全体の活動を包括的に管理できる仕組みを構築したいと考えています。

シチズンホールディングス 監査・CSR室長 永澤 順司

